

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年9月1日～2018年9月7日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は下落しました。カナダ5年国債利回りは上昇しました。

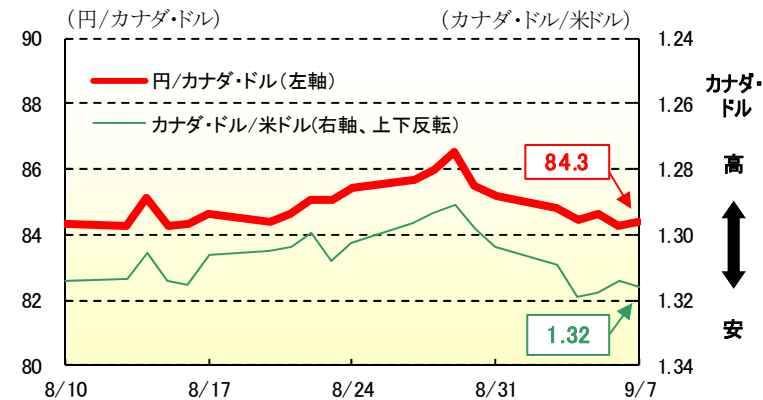
NAFTA(北米自由貿易協定)再交渉の継続がカナダ・ドル円の上値を抑えたほか、中国に対して追加関税を課す用意があるとのトランプ米国大統領の発言などが市場のリスク回避姿勢を高め、円高を進行させる背景となりました。経済指標では8月の雇用統計が発表され、雇用者数の変化は市場予想を大きく下回る低調な結果となりました。前回大幅に雇用者数が増加した反動とみられます。また、カナダ銀行(中央銀行)は政策金利の据え置きを決定しています。金利据え置きは大方の予想通りであり、市場では10月に開催される次回会合での利上げが有力視されています。

【2】今週の見通し

今週は、住宅着工件数や新築住宅価格指数などの発表が予定されています。

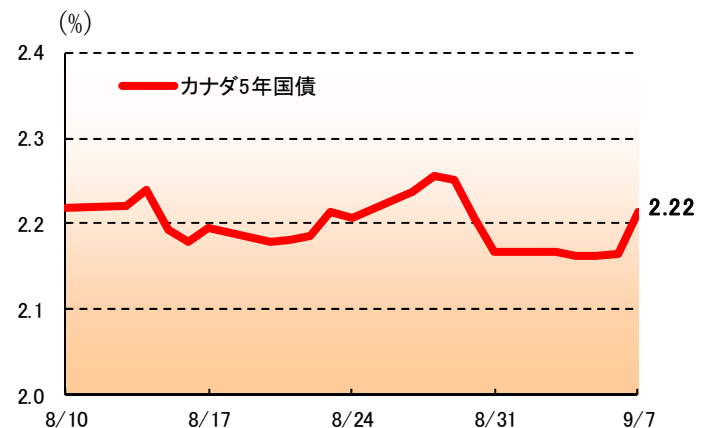
市場での注目は引き続きNAFTA再交渉の動向です。報道によると、乳製品の扱いに関して米国とカナダの意見に隔たりがあり、協議が難航している模様です。トランプ米国大統領が自動車関税の賦課をちらつかせて譲歩を求めているのに対して、カナダ側は今のところ譲歩する姿勢を見せていません。NAFTA再交渉に関する不透明感がカナダ・ドル円の上値を抑える要因となっているだけに、早期の合意が望まれます。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年8月10日～2018年9月7日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【カナダ 金利推移】 (2018年8月10日～2018年9月7日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>